

健康診断で行われている「検尿」は尿に試験紙をつけるだけの簡便な検査ですが、思いもよらない病気が見つかるきっかけにもなる大切な検査です。この研究では「効率的な検尿スクリーニング」を目指し、様々な角度から健診データの解析を行っています。

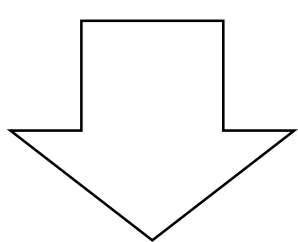
健康診断における検尿って？

日本は出生から老年期まで、あらゆる年齢層の健康診断に検尿が含まれている
「生涯検尿」と称されるシステム

- 生後すぐ～：母子保健法
- 幼稚園～大学生：学校保健法
- 成人：労働安全衛生法、高齢者の医療の確保に関する法律

どんな病気がみつかると？

慢性糸球体腎炎（IgA腎症・膜性腎症）、
ネフローゼ症候群、糖尿病、尿路結石、膀胱がん
など



健康診断における検尿は
早期発見、早期治療、早期疾患教育の機会
＝早く見つけて、早く治す、早く病気について知る

京都大学における健康診断

学生 約20,000人/年 教職員 約8,000人/年
これを6年分集めると・・・

28,000人/年×6
＝168,000人

のべ15万人以上のデータを解析し
新しい知見を生み出す

京都大学健康管理部門/ 附属健康科学センター

実務の中から良質のエビデンスを発信する

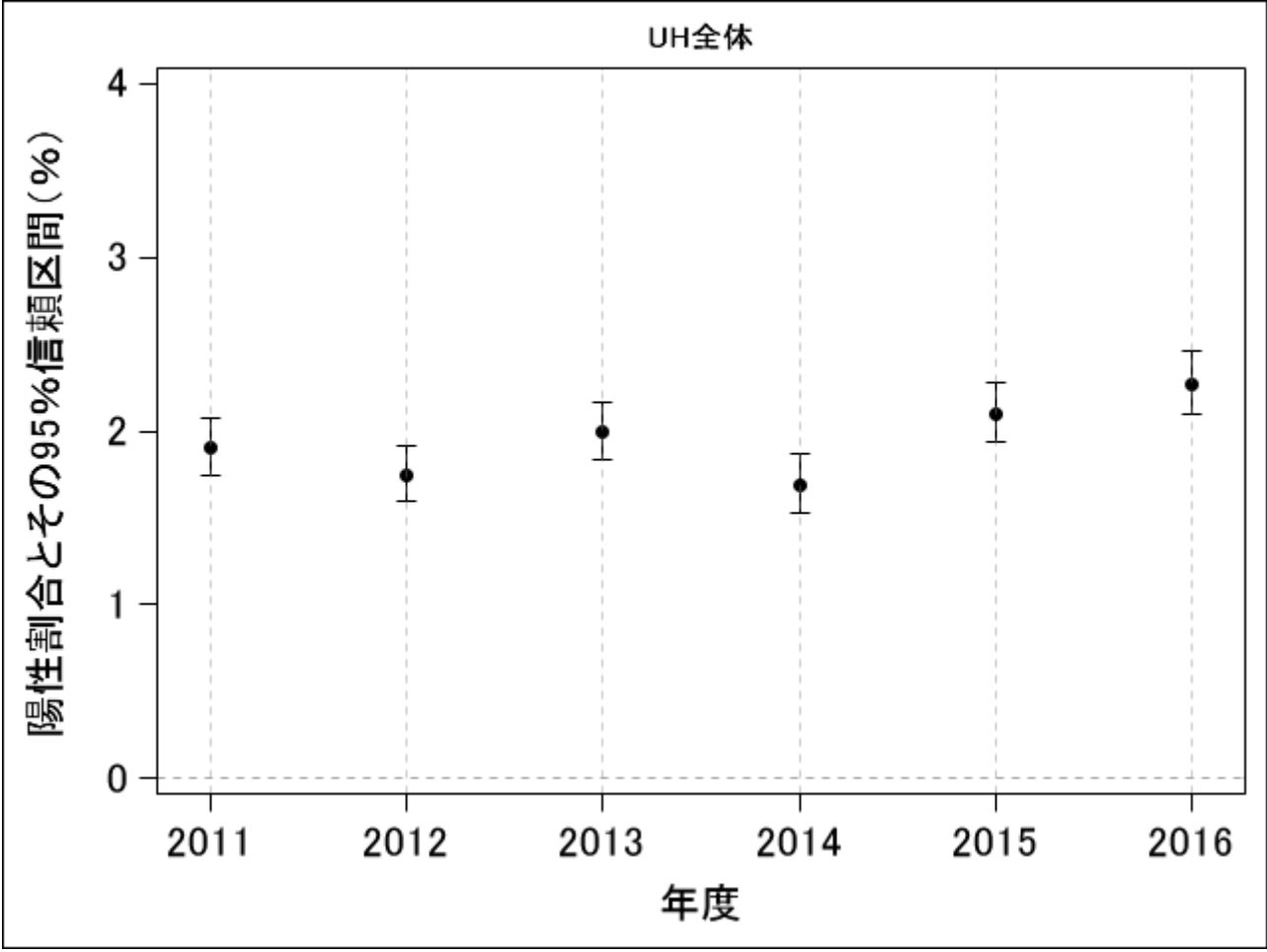
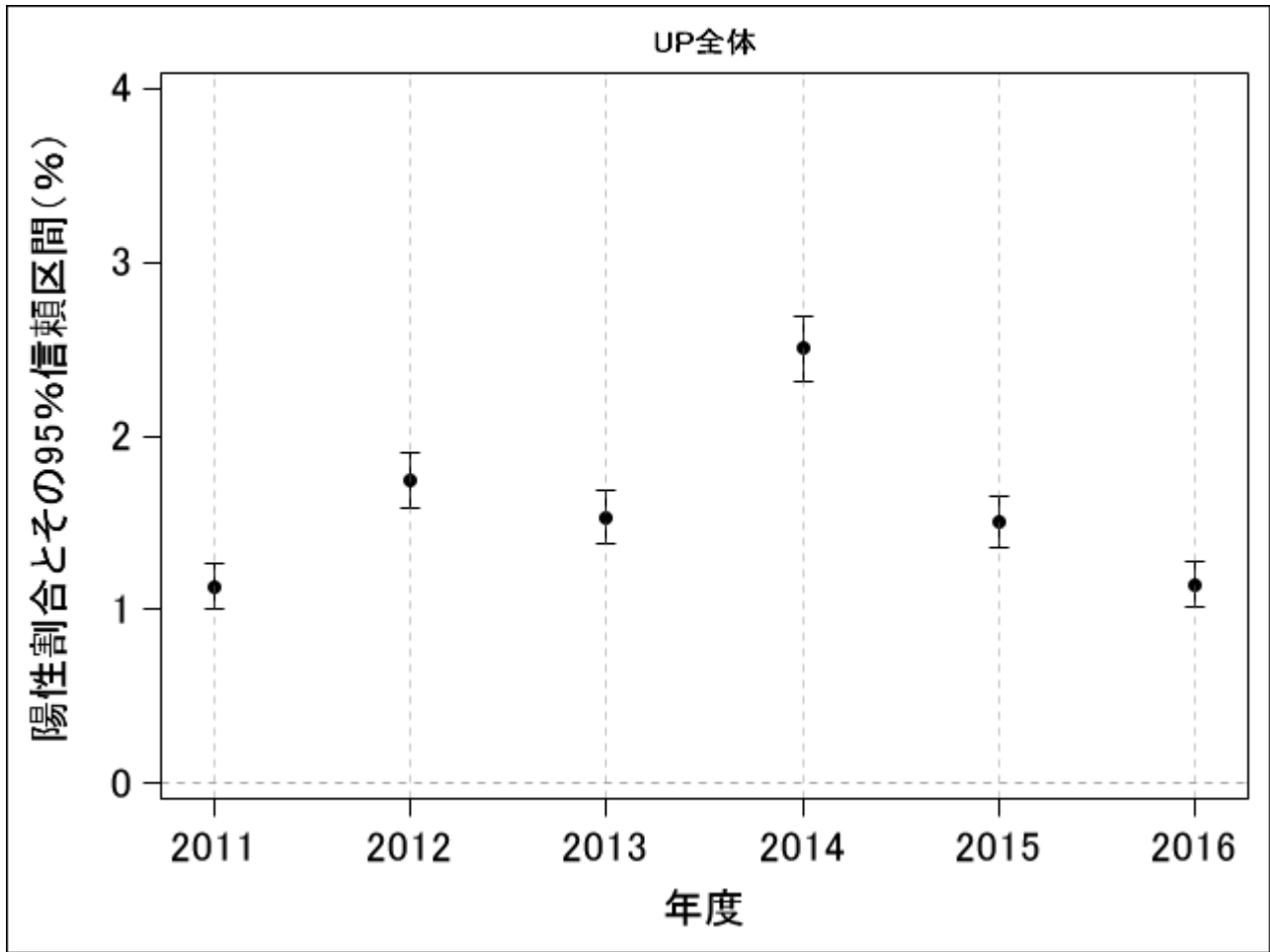


大学保健管理発祥の地

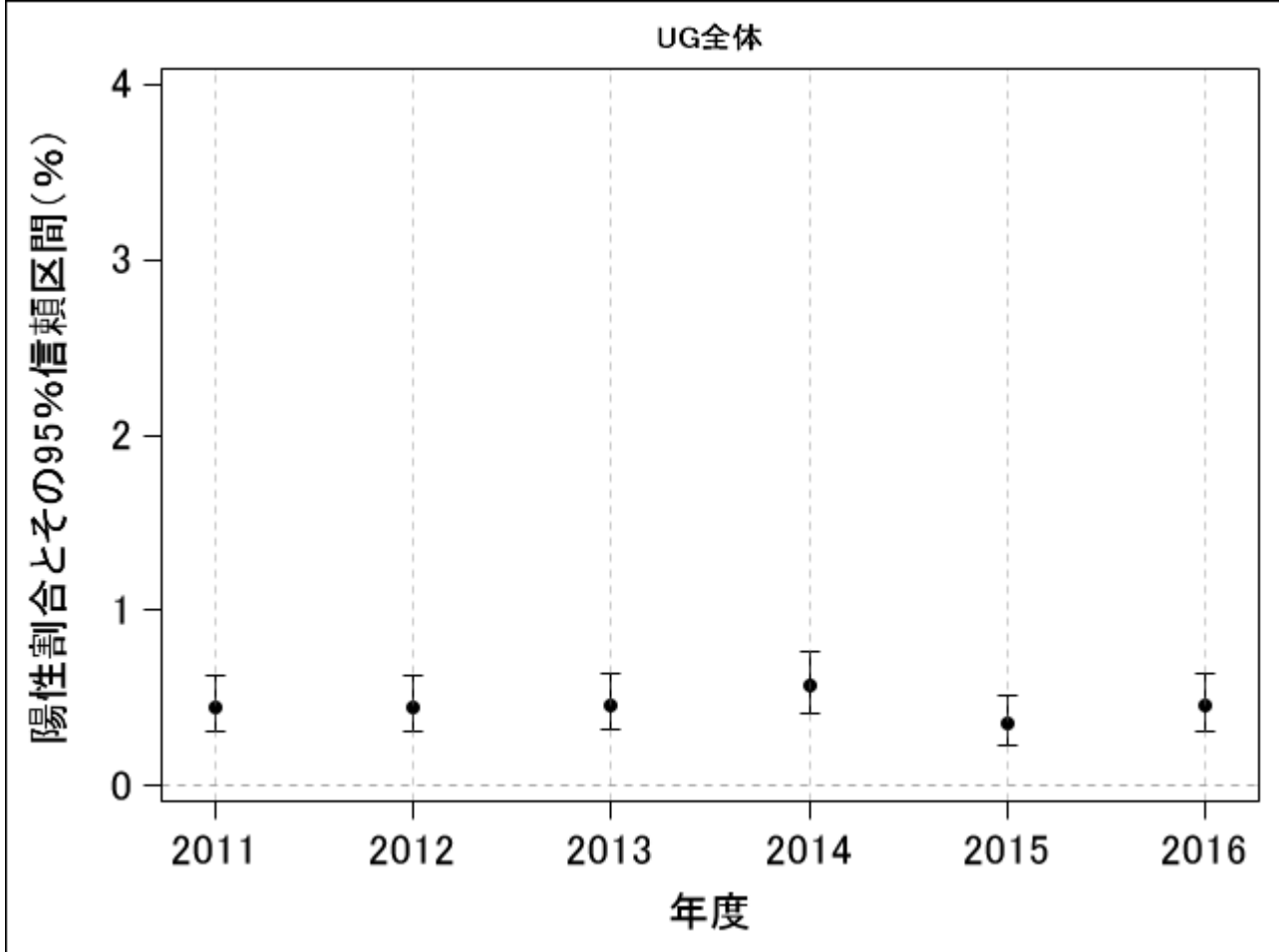


どのくらいの頻度で陽性になるの？

各所見における陽性率は概ね1～2％で推移
尿蛋白 尿潜血



尿糖



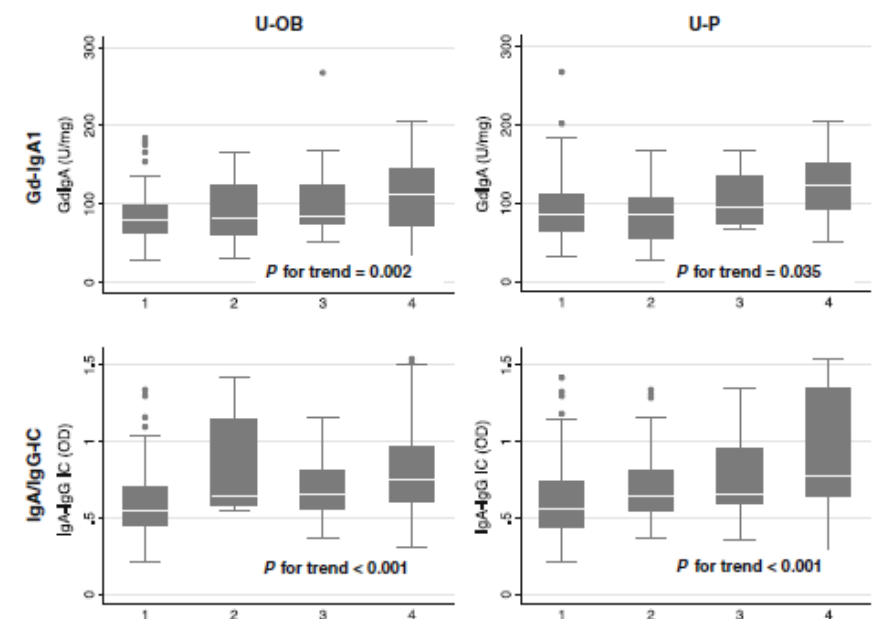
どのくらいの頻度で病気が見つかるの？

- 1次スクリーニング陽性者の約70％が2次スクリーニングを受診¹⁾
- 精密検査で疾患が発見されるのは1～2人/年
受検者の約**0.01％**
（1次スクリーニング陽性者の約0.5％）

効率的なスクリーニングを
行うには？

年次変化？

パターン	件数
○○○	*
○○×	*
○×○	*
×○○	*
○××	*
×○×	*
××○	*
×××	***



(Clin Exp Nephrol 2014)

バイオマーカー？

¹⁾（「IgA腎症新規バイオマーカーを用いた血尿の2次スクリーニングの試み」H24-26年度 総合研究報告書 P58）

謝辞

- 本研究は科学研究費助成事業（若手研究B）「健康診断における効率的な検尿スクリーニングシステムの開発（課題番号：15K19226）」、日本医療研究開発機構（AMED）難治性疾患等実用化研究事業「新規バイオマーカーを用いたスコア法によるIgA腎症早期発見・早期診断を介した透析移行ゼロ化に向けた試み（研究代表者：鈴木 祐介）」の一部として行った。
- 共同研究者としてデータ解析を担当してくださった東京理科大学 工学部 情報工学科 寒水 孝司 准教授、村田 祐紀さん（学部4回生）、大東 智洋さん（修士課程1回生）に感謝いたします。